

新しい「いわて青少年育成プラン」の策定に係るアンケート（（公社）岩手県青少年育成県民会議会員、子供・若者ネットワーク会議、若者活動支援チーム会議）

1 本県で課題となっていることや取組が遅れていること	2 所属団体の中で取り入れたい取組
<p>(1) 人づくり</p> <p>【豊かな心と丈夫な体、自分の可能性を高める】</p> <ul style="list-style-type: none">・自尊感情や自己有用感をもてない子供たちの存在・自負の心の育成、自己肯定感を高めること・コミュニケーション能力の育成・子どもの自立を妨げる親の姿勢（少子化による過保護）・教育（予算がないで片づける行政、教育県・自治体をうたっているが…）特に学校図書館の蔵書においては、国で促進を予算化をしているにも関わらず、他分野の予算に充当しているのが伺える。また、いまだに昭和時代から変わらない図書館整備（全国対比でも下の未整備ランク） <p>【社会への旅立ちの支援】</p> <ul style="list-style-type: none">・青少年はもちろんのこと、県全体の雇用の創出が喫緊の課題だと思う。・県内学卒者の地元就職の向上、若者女性活躍支援（同様意見2）・組織的・計画的キャリア教育の取組について更なる強化が必要と思われる。「地元志向が強いものの～就職期の若者の転出が～P 259」にあるが、個々人の支援で考えるのであれば、地元になりたいが、決まったところが県外だったということになり、自己実現ができているのか、その後、社会的自立ができているのかという疑問が残る。また、Uターンも失敗、挫折したから岩手に戻ってくるのではなく、成功したから地元に戻るといった考え方も持てるような地元への愛着の支援が必要であると考える。（もちろん挫折して地元に戻った時も安心できる地元であることは当然として）そのためにも単なる職場見学・職場体験・インターンシップの実施だけでなく、高 1 からの計画的な能力形成（人間関係・社会形成・自己理解・自己管理・課題対応・キャリアプランニング等）の支援の実施・思春期は扱いにくいとして支援の対象から外されがちだが、自立した人間を育てていくためには避けて通れない世代である。しっかり向き合いながら大人になる準備や訓練を積ませた上で世の中に送り出すことが大切。・多くの大学や専門学校の子供たちの流れが、「地方から大都会」で一方向的流通経路となっており、これは地方の過疎化が進む要因となりかねない。大学の戦略も「大手有名企業」にどれだけ入社させたかが、大学の評価と考えている以上、この傾向は変わらない。 <p>【困難を抱える青少年への支援】</p> <ul style="list-style-type: none">・いじめを一員とする自殺事案の発生を契機として、学校におけるいじめ防止対策に関する県民の意識が一層高まるとともに「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえたいじめ防止など。・SNS上での誹謗中傷などのいじめやネット犯罪等に巻き込まれる危険が深刻化していることを踏まえ、情報モラルに関する指導。・不登校、ひきこもり、ニート対策・支援機関、関係機関、行政との連携強化による、若年無業等の自立支援（ネットワークの強化）・小・中学校等における不登校児童生徒について、未然防止や、発生した場合の早期発見・適切な対応。・県内でも就学・就労できずひきこもっている青年、少年が増加していると聞く。青年、少年だった人	<p>(1) 人づくり</p> <p>【豊かな心と丈夫な体、自分の可能性を高める】</p> <ul style="list-style-type: none">・生きる力を育む教育の充実、豊かな心を育む教育の実現・青少年自らが、夢や希望を持って、その実現に向けて主体的に取り組むことができるよう、次代を担う「人づくり」に力を入れていきたい。・岩手の子どもたちは全員何かしらの可能性を持っている。その可能性を少しでも良いので知って成長できるようにしたい。知るためには多くのきっかけ作り、きっかけとなる事柄を子ども・親揃って取り組めるようにもっていききたい。・「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適応する能力を育てる「人間形成」を目指し、リーダー、指導者の養成に力を入れていきたい。・当会は県内の公立図書館及び専門図書館等で組織しており、当会及び加盟各館の図書館活動を通じて、青少年や児童を主対象とする蔵書の充実や事業・イベント・表彰などの取組に引き続き努めて参りたい。 <p>【社会への旅立ちの支援】</p> <ul style="list-style-type: none">・将来にわたり、地元に残ってもらうため、地元企業が存在を機会があるごとに徹底周知する。・2019 年度からはプログラミング教育に着手、授業以外にも地域 ICT クラブや e-sports も展開する予定。 <p>【困難を抱える青少年への支援】</p> <ul style="list-style-type: none">・いじめ防止対策の推進といじめ事案への適切な処置・児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実等による、不登校対策の推進・平成 30 年度に実施した「地域住民の社会参加活動に関する実態調査」の結果、ひきこもり状態の方の高齢化、ひきこもり期間の長期化等の問題点が浮き彫りになったところであり、ひきこもり状態の方の高齢化・ひきこもり期間の長期化が進めば進むほど、相談支援や自立支援の難易度が高くなっていくことから、若年期・青年期のうちに何かしらの手立てを講じる必要があるため、相談支援の強化、人材育成の充実、普及啓発の強化を中心に取り組んでいく。・平成 30 年 12 月定例会で採択された請願に基づき、全県レベルの連絡協議会の開催や、ひきこもりサポーターの養成派遣についても検討を行っていく。

1 本県で課題となっていることや取組が遅れていること		2 所属団体の中で取り入れたい取組	
	<p>も年を取り、年を取れば取るほど家庭からどう自立させていくか家族も（当人も）難しく、大きな課題になっていると感じる。相談窓口の増設や情報発信が更に必要と思われる。</p> <p>・中学校時代不登校または別室登校のまま卒業させて、安易に通信制高校を始めとする「入れる」高校に入学させる傾向があるように思う。社会との繋がりが極端に弱い若者の増加が気になる。</p> <p>【社会参加の機会の拡大】</p> <p>・大学生のカードによる破綻の現状は憂える事態</p> <p>・幼児期から思春期までを見通した子育て支援（特に中高生の社会参画活動の機会の提供）</p>		<p>【社会参加の機会の拡大】</p> <p>・社会の一員として自立し、政策形成過程への参画促進のため、ワークショップやプレゼンテーションなどによる、子ども・若者の意見表明機会を確保する。</p> <p>・子ども・若者が積極的に意見を述べることにより、その社会参加意識を高める取組。</p>
	<p>（2）地域づくり</p> <p>【地域ぐるみの子育て支援】</p> <p>・関わりを避ける風潮（町内会やPTAを拒む大人） ・不安定な家庭環境（経済面、精神面）</p> <p>・経済的に苦しく、青少年の健全育成まで思いが回らない家庭が多い。</p> <p>・子育て、家庭教育に悩みや不安を抱える保護者の支援</p> <p>・地域の教育力の低下</p> <p>・教育機関、特に高等教育機関と市町村との連携の強化は重要だと感じる</p> <p>・地域総ぐるみで子どもを教え、育てる仕組みづくりの再構築</p> <p>・多世代住宅が継続されない理由の一つに、多くの若者は中央の大学の「大手企業就職」方針に従い、地方から集まった子供たちは、故郷に帰ることなく大都会での就職を決定、そこで生活・結婚・子育てとなり、必然的に核家族化の傾向が更に進むこととなる。</p> <p>【ふるさとを知り地域を体験する活動の支援】</p> <p>・地域の活動を継承する人材の不足</p> <p>・被災地における地域コミュニティ（子ども会がつくれない）</p> <p>・地域住民の協力による学習支援や体験活動を行う機会の充実</p> <p>・健全な青少年を育むコミュニティ（場・人・システム…）の継承（育んでもらった経験を次世代へ）</p> <p>・青少年が地域や地元を知る機会が少ないと感じる。学校と部活の往復ばかりで、結論「地域を知らずに進学し、戻ってこない」ケースがほとんどな状況だと思う。</p> <p>【世代間・地域間等の多様な交流の促進】</p> <p>・現在は少子高齢化に伴い、多世代世帯が減少するとともに核家族化が進んでいる</p> <p>昔のような多世代と会話や交流する機会が減少するとともに地域や町内の交流が減少し、人間関係が希薄になってきている。</p> <p>【青少年団体活動の支援】</p> <p>・取組の発信力</p>		<p>（2）地域づくり</p> <p>【地域ぐるみの子育て支援】</p> <p>・子育てや家庭教育に関する学習機会の提供 ・家庭教育を支える環境づくりの推進</p> <p>・家庭で、子どもたちが挨拶や自己紹介が普通にできるように指導するよう、家庭教育力の充実を図るような講演会や行事等を実施していきたい。</p> <p>・学校経営、教育課程、指導育成、危機管理、家庭や地域との連携の在り方</p> <p>・学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり（コミュニティ・スクールの推進、地域学校協働活動の充実等）</p> <p>・地域のおじさん、おばさんの活動をする仲間を一人でも多く増やしたい。私たちは仕事をしているのではなくボランティア意識の深さから関わっています。あわせて各々の地域課題に対処できるスキルを磨いていきたい。</p> <p>【ふるさとを知り地域を体験する活動の支援】</p> <p>・一人ひとりの子どもがふるさとを愛し、ともに支えあいながら未来を拓く子どもを育てる学校教育の在り方を、研修を通して考え実践していくこと。</p> <p>・豊かな体験活動の充実</p> <p>・巣立つまでの若者に対しては、地域で育まれた伝統や文化を伝えるとともに、地域の団体や多世代とのコミュニケーションを頻繁に行うなど、一層の地域愛を高めることが必要だと思われる。</p> <p>このため、県内各地で継承している祭りや文化に対して、団体としての助成をするなど多くの世代が交流する場所・機会として確保が出来たらよい。</p> <p>・「子どもと陸前高田の可能性を広げる」ことに依然注力する予定。</p> <p>地域を通した多様な機会提供により「子ども→可能性が広がる」「地域→転出後も関わる、または戻ってくる」を創出。</p> <p>【世代間・地域間等の多様な交流の促進】</p> <p>・地域内の場所（寺・神社含む）で障がい者・高齢者等の異年齢集団とのふれあいを深め、共生社会への理解促進を図る取組活動を町と一緒に検討することがこれからの事項。第1段階として奥州市さんと交流。</p> <p>・地域・世代間交流</p> <p>【青少年団体活動の支援】</p> <p>・団体間の交流</p>
	<p>（3）環境づくり</p>		<p>（3）環境づくり</p>

1 本県で課題となっていることや取組が遅れていること		2 所属団体の中で取り入れたい取組	
	<p>【青少年の居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 子どもの健全育成のための放課後の居場所づくりなどの充実 <p>【安全・安心な地域社会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 青少年を事件・事故から守る環境づくりを支援するため青少年の居場所づくり（場、人、システム…）・ 児童虐待・家庭内暴力の発生 <p>【非行防止活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本県の刑法犯少年の検挙・補導人員が、平成 27 年から連続して増加しているとの記述があるが、保護司の立場からもそのことを実感している。その少年たちに共通して見られることは、家庭内における規範意識の欠如、小学校高学年～中学校段階での「学び」からの逃避が見られる。そのような状況からも社会的自立に困難を抱える青少年への支援が重要な課題であると考える。・ メディア対応能力対策（小中学生のスマートフォンの利用者の割合が高くなっていると感じているため）・ ネット利用の危険性に関する指導・啓発・ 小中学生のデジタル活用に向けて備わっていないデメリット対策・ デジタルありきで与えるだけの環境（学校、教育現場、親） ・ 個人所有の低年齢化・ フィルタリング設定率の低さ・ インターネット、スマホの利用による落とし穴、親子でしっかり確認していない現状が大きな課題。あわせて金銭教育にも力を入れて欲しい。・ （SNS に起因した）保護者間のトラブルの発生・ 近年の急速な情報技術の発達に比べて、青少年のメディア対応能力対策はまだまだ不十分だと感じる。特に小中学生では、いじめ等のトラブルの原因ばかりでなく過度の依存症となり医療的な面からも対応が必要なケースが増えているように感じる。・ インターネット、携帯電話等の情報機器を通じた犯罪や被害を未然に防ぐための指導や、教材による啓発について、内容別の成果や、その後の変化に係る考察。また、子ども・青少年のほか、その保護者を対象とした情報モラル指導の取組。・ SNS やコミュニティサイト利用による児童・青少年被害の意識啓発・ インターネットの違法・有害情報から身を守るための術（知識・技能、問題発見・解決力、関心・意欲・態度）の継承（伝えてもらった術を持続的に次世代へ）		<p>【青少年の居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 団体の活動の一つとして、というのは難しいのですが、各施設とも地域との交流をし、各地域の中での幼児教育の中心となるように、保護者の育児相談にのるなどしています。地域の中の一施設として、青少年、子どもたちの育成に関われればと思っている。・ 地域社会の多様な人間関係の中で子どもが育つような環境や機会の醸成（具体的には、子どもの居場所づくり事業の展開）・ 当団体、本事業を 20 年間継続しているが、青少年をめぐる今日的課題「児童虐待、子どもの貧困、不登校、ひきこもり、不良行為」等々の予防や課題解決に一定の成果を上げており、今後も継続して実施していきたい。 <p>【非行防止活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生きづらさから非行・犯罪に至った青少年の立ち直りに必要な居場所づくり・ 生徒指導の面からもメディア対応能力対策について小・中・高等学校間の校種を超えた情報共有と一貫性、系統性のある取組に力を入れていきたいと思います。・ 毎年 7 月を強調月間として取り組んでいる「社会を明るくする運動」を通念的な活動としながら、青少年の健全育成に寄与できるように創意工夫しつつ推進していきたいと考えています。・ 非行など問題を抱える少年の立ち直り支援活動・ 地域援助、鑑別業務を通じて、非行防止、少年の健全育成につなげていきたい。・ メディア対応能力の向上
	<p>（4）若者の活躍支援</p> <ul style="list-style-type: none">・ 人口減少とともに、若者の県外流出に歯止めをかける施策や環境の整備が必要と思われる。・ 若者の活躍支援		<p>（4）若者の活躍支援</p> <ul style="list-style-type: none">・ 後継者育成